明日につながることを信じて・・・

仲嶺　真弓

2017年度最終回のつばさっ子となりました。

別れと出会いが混在する季節で、いよいよ５歳児の卒園を迎える時期になりました。思い起こせばつばさ共同保育園開園の年に０歳児クラスに入園してきた子どもたちが卒園を迎えます。開園当初は園児数81名のスタートでしたが、全員が新入園児。４月最初は全クラスのあちらこちらから泣き声が響いていていました。０歳児８名も慣れるまで泣いて泣いて…。事務員の一森と吉尾も本業の事務仕事をおいて、保育ヘルプに入り、泣く子を抱いてあやしていました。その時の０歳児が今年度卒園を迎える５歳児で、何とも感慨深いです。

2017年度４月は、112名の園児と、34名の職員数でスタートでした。現在は128名の園児と42名の職員という年度末を迎えます。

今年度は４月の時点で２・３・５歳児はすでに定員いっぱいで受け入れはできませんでしたが、０・１歳児は毎月少しずつ入園児を受け入れてきました。ほぼ毎月、途中入園を受け入れ、慣れた頃に、また新入園児を受け入れるので、きっと担当職員は、毎月緊張感で息切れしかけたこともあると思います。けれど、晴れてつばさっ子の顔になっていく子どもたちの笑顔と保護者が安心して子どもを預けてくれることが何よりもの元気の源でした。２・３歳児クラスは、とにかく４月からの大人数に、日々、悪戦苦闘していました。人数の多さに、大人の手がほしいという声も耳に入ってきました。主任が全体の体制を調整して最大限のヘルプをしながらも、「とにかく少人数でグループ保育をしよう」をキーワードに子どもたちがより落ち着いて過ごせる場所作りを考えた１年でした。春は園庭をすり抜けて、園外に飛び出していく子がいないかと、事務室の窓からも注意深く見守るようにしていたことを思い出します。テラスに保護者とバイバイをする子どもの姿しか見えなくてよくヤキモキしたけれど、すぐ近くの室内から見守る暖かな職員の眼差しにほっと胸を撫で下ろしました。４・５歳児たちは、４歳児に新入園児を迎え個々の子どもがどんな姿を見せてくれるのか、大人はひたすら、子どもたちの動向を根気よく見守る日々を重ねていました。ハチャメチャに感じる状況も、四苦八苦しながら、個々の子どもたちの持ち味を掴んでいこうとする担任の保育姿勢が見て取れました。５歳児は前年度の保育と子どもの状況をもっと詳しく知りたいから、前担任と再度話をさせてほしいという担任からの希望に、個々の子どもをより理解して関わろうとする姿勢を感じ、保育園生活最後の年を充実しともものにしたいという担任の意気込みを感じました。そんな４月の状況から11ヶ月が経った今、どのクラスの子どもたちも少したくましくなった表情が見られ、１年の成長を感じます。それを感じられることが何よりもの喜びです。

今年度は大人同士の関係も、つばさっ子“おやおやルーム”の発信から始まったやり取りから、職員も今までを振り返り、これからを考える機会をもらえました。このきっかけを大切に、日々の何気ないやり取りが明日につながると信じて、2018年度に繋げていきたいと思います。

お泊り保育で子どもたちが作ったカレーを一緒に食べました

【2018年３月で退職する職員からのメッセージです】

ここでのたくさんの思い出たち…大切にします。

ありがとうございました。　　南　和代

去年の６月からつばさ共同保育園に来てから、少しの間でしたがとても楽しい日々を送らせて頂きました。

保護者の方と交わす挨拶や笑顔、何気ない会話に元気をもらい、日報にほっこりしたり…。

たくさんの子ども達に出会い、たくさん笑いました。また、ここに戻ってこられる日が来るといいな…と。

短い間でしたが、ありがとうございました。　　三浦　さち子